



六角堂 ~京の中心で~

都会の中心にありながら、周りの喧騒など嘘のように静かに佇むお寺、六角堂。今回はそんな六角堂をご紹介します。ぜひ一度訪れてみて、春のうらかな空気の下、ゆったりとしたひとときをお楽しみください。(紫陽)

六角堂の沿革

京都市街の中心、烏丸通から六角通を東に入るとすぐの場所に六角堂があります。境内に入ると、先ほどまでの街中の喧騒が嘘のように静かです。聞こえるのは鳩が時折羽ばたく音と、階段状になった池を水が流れ落ちる音くらいです。

六角堂の正式名称は「紫雲山頂法寺」といいますが、本堂が六角形の建物なので六角堂と呼ばれ、京の町の人々には「六角さん」の名称で親しまれています。

宗派は天台宗で、本尊は聖徳太子の護持仏と言われる、丈がわずか1寸8分(約5.5cm)の如意輪観世音菩薩です。



▶六角堂の本堂。上から見ると六角形になっています。

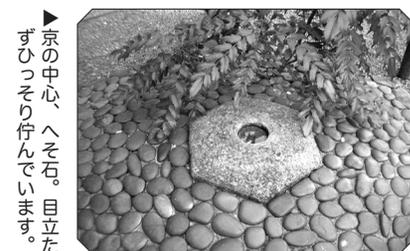
歴史は古く、今から約1400年前の西暦587年、聖徳太子を開基として創建されたと伝えられています。応仁の乱以後は、西国巡礼三十三所の1つとして庶民の信仰を集めるようになりました。

六角堂を楽しむ

六角堂には他にも楽しみどころがあります。売店では鳩がおみくじを運んでいる「幸福鳩みくじ」やへそ石の形をした「へそ石餅」が販売されています。へそ石餅は併設されているお茶所でお抹茶と共に食べることもできます。また、東門に入って少し行くと、右手に「一言願い地蔵」がかわいらしく立っています。本堂の前には「縁結びの柳」として知られる「六角柳」があります。

京の中心「へそ石」

六角堂の東門を入ったところの敷石の中央に、六角形で中央に丸い穴の開いた石があります。この石は「へそ石」と呼ばれていますが、この名称は、この石がかつての平安京の中心(=へそ)にあることに由来すると言われています。



▶京の中心、へそ石。目立たずひっそり佇んでいます。

平安遷都の折に六角堂が道路の中心にあたったため、桓武天皇の勅使が南北どちらかに動いてもらえるよう祈願すると、へそ石ひとつを残し北へ5丈(約15m)ばかり退いたという逸話が残っています。

この逸話を聞いて、なぜへそ石が境内にあるのか、と疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれません。実は、へそ石は明治のはじめに門前の六角通りから現在の位置に移されているのです。そして現在へそ石のある場所がかつての平安京の中心、というわけです。

いけばな発祥の地

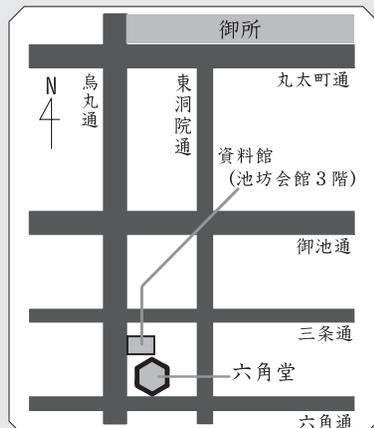
六角堂はいけばな発祥の地としても有名です。境内の北面に聖徳太子の沐浴の池の跡があるのですが、その池のほとりに小野妹子を始祖とする僧侶の住坊があったところから、ここは「池坊」と呼ばれるようになりました。池坊の祖先は朝夕神仏の御前に花を供え、ついには代々いけばなの名手として知られるようになりました。こうして六角堂の地からいけばなが世に広まったのです。

現在も六角堂は華道家元の池坊が管理しており、六角堂の周りには池坊の関連施設があります。いけばなの資料館は事前にメールまたは電話で予約すれば無料で見学できるので、興味がある方は見学してみたいはいかがでしょうか。

※資料館見学の予約は下記まで。
TEL : 075-221-2686
mail : kengaku@ikenobo.jp

アクセス

開門時間：6時～17時 拝観料：無料
アクセス：京大から西進して烏丸通まで行き、烏丸通を南下する。所要時間は自転車で約20分。



▶幸福鳩みくじ。境内にたくさんいる鳩にあやかっているのでしょうか？



▶一言願い地蔵。欲張らず紙に一言だけ願い事を書いて供えようと叶うそうです。

はみだし
すてーじ

日に20回近く歯を磨きます。
⇒人は磨けばどんどん輝けます。向上心を忘れないで。

(医・1 匿名中の匿名)
(けれど歯は磨きすぎると擦り減りますよ；編)